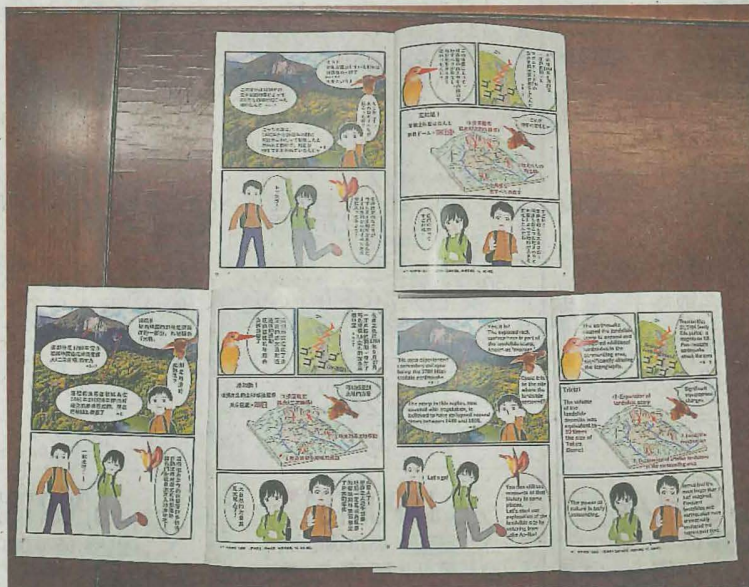


十二湖の魅力マンガに

弘大・鄒講師の研究グループ



弘前大学農学生命科学部の鄒青穎講師（応用地形学）の研究グループは、深浦町の観光名所「十二湖」の魅力科学的根拠に基づいて分かりやすく伝えるマンガ「十二湖の魅力に迫る!!」を制作した。海外発信を見据え、日本語版に加え、台湾などで使われる中国語繁体字版、英語版も同時リリース。オンライン上で公開したほか、市内の白神十二湖エコミュニシウムやアオーネ白神十二湖などで冊子を配布している。

（三國谷啓）

弘大グループが3カ国語で制作したマンガ「十二湖の魅力に迫る!!」の内容の一部（写真上）と表紙（同下）



科学的根拠に基づいて

深 浦

マンガは、同研究室に所属した根城雅子さん（2024年卒、現・農林水産省東北農政局）が卒業論文の一環として制作に取り組んだもの。内容や構成について鄒講師の指導・助言を受けながら初案を作成し、23年12月に開いた十二湖で活動する地元ガイドとの交流会で紹介。ガイドの意見を受けて内容を精査した。鄒講師による翻訳作業や米国出身の教員による英語校正を経て、多言語展開した。

マンガは、初夏に十二湖を訪れる渡り鳥「アカシヨウビン」、都会で暮らしている小学5年の「涼太」、妹で小学3年の「久瑠実」が対話しながら、33の湖沼からなる十二湖の成り立ち、地滑りがもたらした豊かな地形や景観などについて、ふんだんな写真とともに学術論文をひもときながら紹介している。

マンガ制作について鄒講師は「十二湖の自然や歴史をより多くの人々に伝え、観光や環境教育の促進に貢献することが目的。観光客が旅行前にマンガを読むことで、十二湖の自然や歴史について理解を深め、より充実した観光体験が可能になる」とコメント。地元小中学校の環境学習やフィールドワークへの活用も期待していた。

この画像は、当該ページに限って”東奥日報社”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。